

京北町の農業

京北町の農業の基幹作物は水稲で、その農業生産額は町全体の約7割を占めています。特に採種は、府下随一の規模で、約22ヘクタールの作付けがあります。

また、ほ場整備等の農業生産基盤整備についても、可能区域の整備はほぼ完了しています。



ほ場整備された水田



みず菜のハウス栽培

水稲以外では、都市近郊の市場有利性と冷涼な気象条件等を活かし、従来からかぶの生産が盛んです。また、近年は、京野菜として推進してきたみず菜や伏見とうがらしの施設栽培、紫ずきんの栽培が拡大しており、いずれも市場から高い評価を得ています。

京北では、地域農産物の加工分野において、地域の伝統食である納豆もちの商品化をはじめとして、農産物加工場を利用した取組が活発に行われています。その加工原

料として大豆や小豆も作付けされ、農業所得の向上と地域の活性化に貢献しています。

また、平成8年からは、都市住民との交流を図るため、朝市が行われるようになり、市内からも多くの買い物客が訪れ、大変賑わっています。

この他、地域には桂川を本流として弓削川、灰屋川、小塩川、細野川などの支流が流れ、その清れつな水資源を活用して、鮎やあまごなどの放流事業も盛んに行われているほか、釣りに関するイベントも開催されています。

現在の課題である従事者の高齢化と後継者不足の対策としては、「(財)きょうと京北ふるさと公社」が中心となって、農作業受委託や担い手への流動化により農地を効率よく活用していく必要があります。

野菜生産については、農業所得の向上を目指し、京野菜生産拡大のためのハウス導入などに取り組むほか、京都市で開発している「京てまり」や「京唐菜」などの新京野菜についても試作し、積極的な野菜振興を進めていきたいと考えています。